

農家 今昔 物語

こいぶみの前身「ひろしまる倶楽部」の表紙を飾ってくださったみなさんを、12年経過した今、再び訪れて「今」を話していただきました。

人とのつながりを 大事に農業人生を 走り抜く

佐藤 和夫さん

安佐北区深川



2018

安佐南区大町にある直売所「とれたて元気市」を訪れると消費者や出荷者と触れ合う佐藤さんの姿が見られます。鮮度や消費者ニーズへの対応に気を付けている佐藤さんは、朝収穫したばかりの野菜を出荷した後すぐに売場に立ちます。「消費者からの生の声が聴け、出荷物の売れ行きや他の生産者の出荷状況が把握でき、さらに新しい品

種や設備など、栽培に役立つ情報を収集できる」と佐藤さん。消費者のニーズから、直売所でいち早くカ

ボチャのカット販売などを始めました。以前のように体力的な融通はききませんが、農業に対する思いは今も変わりません。「味」にこだわり、土づくりや

栽培管理に人一倍力を注いで生産した農産物を、うまいと素直に喜んでもらえるように、多くの人に提供したいという「志」

それに応えるように、商品に記載された佐藤さんの名前を見て購入するファンは多くいます。これを「農家が志を持って農産物を生産し、志を持った消費者がそれを支える」という「志産志消」という言葉で佐藤さんは表現します。損得抜きに答えるた

2006



▲ハウス内では地面を約10cmの泥が覆いました。(4年前の様子)

め、「佐藤さんの言うことなら」という信頼感から、消費者、農業者を問わず多くの相談があり、それに対して佐藤さんは惜しみなくアドバイスを行います。4年前の8月20日に発生した豪雨災害ではハウス内に泥水が流れ込み、出荷ができない状況が続きました。最近増えたと感じ



▲朝もぎにこだわり早朝より作業を行います。

じる自然の脅威と付き合い、さらに体力が落ちたと実感する身体と付き合いながらも、今後もしも生涯の仕事として農業に取り組み、人生を走り抜いていきます。